

日時	平成31年3月6日(水) 15:30~16:45			
部会名	鑑賞部会	主任	山田 万里 (大岡小)	
参加数	6名	司会	山田 万里 (大岡小)	記録 高森 さとみ (上白根小)

鑑賞部会テーマ

音楽のよさや面白さ、美しさを自ら感じ取り、聴き味わう鑑賞活動

～「聴き味わう」子どもの姿を目指して～

○研究のまとめと今後の課題

<研究内容について>

◎「聴き味わう」子どもの姿についての部会で話し合いをうけ、研究の方向性を決めた。

「自分にとっての価値」を見出し聴く前と後で変容が見られる

→そのために、授業の過程で知覚と感受を結びつけたり、往還させたりしながら、価値に気付く展開をする。

今年度、見えてきたこと

- ・教材研究、楽曲分析をするときにも、具体的な子どもの姿をイメージすることができた。
- ・授業の中で見られる様々な子どもの具体的な姿を想定するときのよりどころとなり、授業のねらいが定まった。
- ・研究の方向性を意識した実践提案を行うことができたので、研究につながりができた。
- ・聴き味わうとは、子どもが音楽的な要素をとらえていることが前提。
- ・聴き味わうために、音楽の要素や仕組みを理解できるよう、教えたり、支援したりする。
- ・「聴き味わう」子どもの姿には、授業の導入で見られる姿、途中で見られる姿、最後に見られる姿がある。本時で目指す子どもの姿について、明確にする必要がある。
- ・本時で身につけさせたい力を明確にした「子どもの姿」を想定するとよかった。
- ・本時で学習した結果から、子どもが価値を見出すことができるように授業を展開したい。
- ・「鑑賞とは」「知識のとらえ」について講義を受けてから、研究をすすめることができよかった。

研究の日程と内容について

- ・基礎研究で、館校長先生からご助言（「鑑賞とは」「知識のとらえ」）をいただく機会がありよかった。
- ・研究授業前に、2校からの実践提案があり、よかった。
- ・模擬授業に、多くの部員が参加できるとよかった。

<今後の課題 ～来年度からの研究にむけて考えられること～>

- ・教材や領域の系統性、既習事項を生かした聴き方
- ・楽曲分析、ワークシートなどを共有
- ・ICTの活用の研修（例えば音鑑による）

<1年間を通しての感想>

- ・聴き味わう子ども姿のイメージがもてた。
- ・実践を通して、学ぶことができた。
- ・こちらの手立てにより、子どもが変わる実感があった。
- ・鑑賞の能力の高まりが、歌唱や合奏など他領域の学習にも生かされ、よりよい表現の工夫につながる。

